



日本建築学会緊急シンポジウム

葛西臨海水族園の 長寿命化を考える

主催：一般社団法人 日本建築学会
後援：一般社団法人 日本建設業連合会
公益社団法人 日本建築家協会
公益社団法人 日本建築士会連合会
一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

日時：2019年12月19日(木)
13:00～17:00

会場：建築会館ホール
東京都港区芝5-26-20

葛西臨海水族園は、1989年（平成元年）のオープン以来5,500万人を超える人が訪れ、今や東京都の貴重な文化・リクリエーション施設となっています。その水族園も開園から30年を経て、バリアフリー対策も含め飼育設備の更新の時期を迎えています。

東京都は2018年に「葛西臨海水族園のあり方検討会」を開催し、報告書も発表しました。今年度には「葛西臨海水族園事業計画検討会」が開催されています。問題は、今年度の検討会の前提として、「既存施設は老朽化し水族館機能を果たさないと断定している」ことであり、既存施設の将来についての議論が全くなされないまま、新たに計画されている施設へ水族館機能を全て移すことになっています。東京都は明言を避けていますが、水族館機能を奪われた既存施設は、取り壊される可能性が十分にあります。

今必要なことは、既存水族園についてその健康度を再調査した上で、建築的、文化的価値を改めて論じ、将来を見据えた既存施設のあり方とサステナブルで健全な水族館の運用方法を考えることであり、東京都が提唱する「持続可能な社会」を達成することです。

東京都に既存施設の機能維持と長寿命化を考慮した適切な水族園の整備計画を再考していただきたいと強く願い、「葛西臨海水族園の長寿命化を考える」と題して緊急シンポジウムを開催します。

会長挨拶：

竹脇 出 京都大学教授、日本建築学会会長

基調講演：

榎 文彦 榎総合計画事務所代表

葛西臨海水族園事業計画の概要と問題点：

柳澤 要 千葉大学教授、葛西臨海水族園事業計画検討会委員

ライフサイクルについての概説：

村田博道 森村設計副社長、東京都葛西臨海水族園設備設計者

講演：

安部義孝 ふくしま海洋科学館長、元東京都葛西臨海水族園長

仙田 満 東京工業大学名誉教授、元日本建築学会会長

古谷誠章 早稲田大学教授、前日本建築学会会長

松隈 洋 京都工芸繊維大学教授、DOCOMOMO Japan前代表

討論会司会：

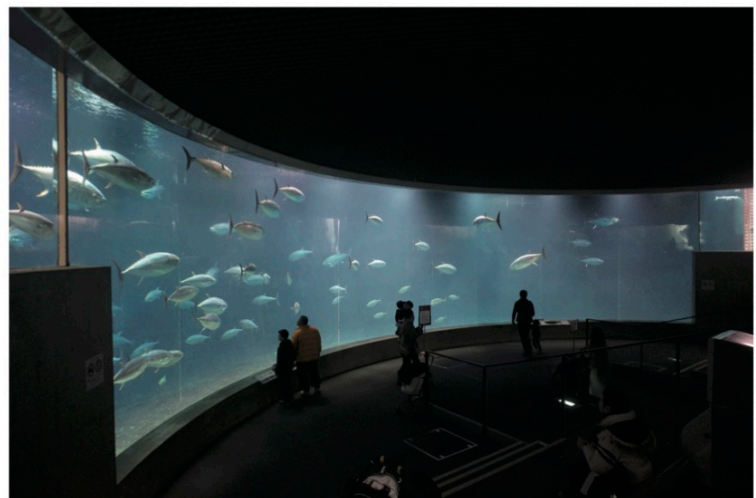
森山高至 建築エコノミスト

まとめ：

田中友章 明治大学教授、日本建築学会担当理事

総合司会：

安田幸一 東京工業大学教授、葛西臨海水族園事業計画検討会委員



クロマグロが群泳するドーナツ型の大水槽(2,184t)。建設当時、国内最大規模であった。内径約20m、外径約28m、全周80～90m、最大深度7m。

申込方法 Web申込み

<https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=625213>
参加費無料・申込み先着順（定員250名）

問合せ先 日本建築学会事務局 事業グループ 一ノ瀬

TEL：03-3456-2051 E-mail：ichinose@aij.or.jp